暮らしを描いて八十年

この地に育った文学の灯を絶やすことなく

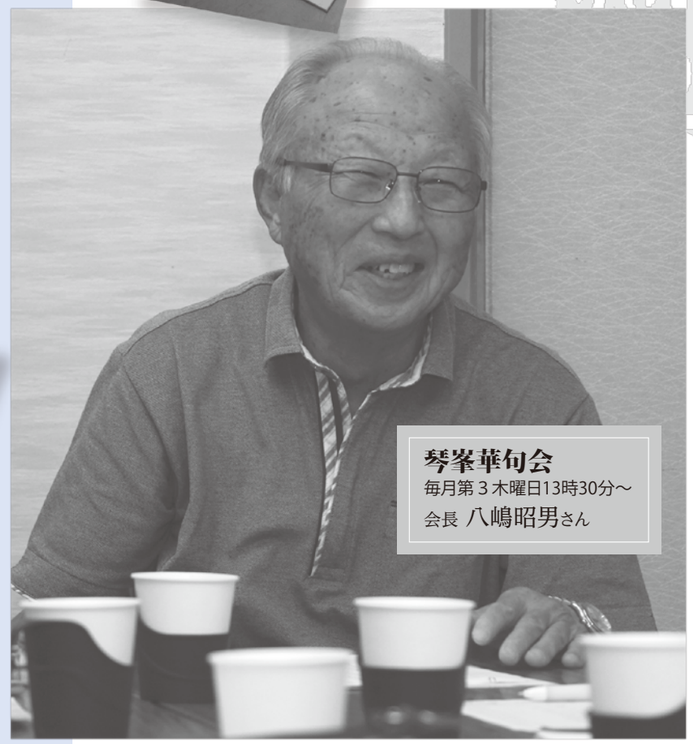
「一声を掛けて笑顔の草取女」

8月22日、琴峯華句会で詠まれた一句。琴峯華句会は、昭和14年の発足から今年で80周年を迎え、記念句集「琴峯華」を発刊しました。

町には俳句や短歌の会が3団体あり、それぞれに句集を発刊。町広報でも毎月紹介しています。

今月は、町に育った文学の灯を取り上げます。

「高嶺」「薫風」と名を変えてきた句集
これからは「琴峯華」として歩み続ける



琴峯華句会
毎月第３木曜日13時30分～
会長 八嶋昭男さん

いくつになっても学ぶ楽しさ

昭和14年の春、旧来島村の医師河合雨葉さんの提唱で発足した琴峯華句会。来島を拠点に俳句好きが集まって、句会を開き、座を楽しみ、お互いに学び合いながら、明るく楽しい句会を続けてきました。会員が40人を超す時期もありましたが、価値観の変化、人口の減少、高齢化などによって減少。現在の会員は12人で、52歳から98歳まで幅広い世代が句を通して交流を深めています。

月1回開かれる句会では、1人が五句ずつ持ち寄り、全ての句の中から自分好みの五句を選びます。多くの人に選ばれた句の作者が最後に発表され、句にまつわる物語が語られます。昔から句の先生がいないため、現在6人が京都の句会に所属するなど、会員それぞれが学びを深めています。

この会で平成5年から会長を務める八嶋昭男さんは「限られた文字数で、季語を使いながら自分の想いを表現するのはとても難しい。当然、1回で言葉がはまるわけもなく、何度も何度も練り直す。そして自分の納得のいく形で表現し得た時、ものすごい達成感があります。その句が周りの人に説明せずとも伝わり、何らかの評価を受けると、なおさら楽しいです」と話します。

八嶋さんはもともと文章を書くのが好きで、前会長の垣内峯雅さんに誘われたのをきっかけに入会しました。

「自然や人のしぐさ、時代を超えて変わりゆく季語。それらに変化があるから、いくつになっても学ぶ楽しさがある。自分の想いを誰にでも分かる言葉で表現することは、長年やっていても難しい。だからこそ、誰にでも挑戦できる。やっていく中で上手に、そして楽しくなる」と続けました。

（上）句を見つめるまなざしは真剣そのもの
（中）楽しく添削、上がる腕前
（下）茶菓子を囲んでの、なごやかな雰囲気

苦しい、けど楽しい。

俳句も短歌も日本の伝統文化のひとつ。どちらも限られた文字数で、目の前の情景やそれを見て感じた喜怒哀楽などの感情を描写する「定型詩」です。

俳句は「5・7・5」の17文字で構成され、季語（季節を表す言葉）や「や」「かな」「けり」などの切れ字を入れるのが決まり。主に自然や季節の移り変わりを題材にします。

短歌は「5・7・5・7・7」の31文字で構成され、歴史は俳句よりも古い。家族や恋人への感情を詠うことが多く、主に自分の身のまわりのことを題材にします。

句集「ふじつる」には
小中高生の短歌も掲載

赤名短歌会
毎月第３金曜日13時30分～
（平成３年発足・現会員９人）
会長 烏田勝信さん

個性溢れる歌に自然と会話が弾む

歌を通して人生を豊かに

感動を表現するのに喋ったり、表情に出したり、身振り手振りするなどたくさんの方法があるけれど、31字で表現することは「苦しい、けど楽しい」。

自分が感じたことをそのまま表現するだけなので、周りの人に伝えるのが目的ではありません。でも会では、歌に込めた想いや歌を詠んでの所感を共有するんです。面白いことに、人それぞれに感じ方が違うことが多々あります。短歌があるからこそ、人の気持ちを深く知れます。

また会の前に、皆さんの歌をまとめて配布していることもあり、会当日には、歌に登場する「花」を持ってきて飾ってくださる方もいらっしゃいます。花の形や色、匂いを感じながら歌を詠むと、より深く想像でき、感性が磨かれている気がします。短歌を通して人生を豊かにしていきたいです。

句集「高原」第4号は
発足20周年記念で発刊

頓原公民館短歌教室
毎月第２木曜日13時30分～
（平成８年発足・現会員12人）
会長 安部徳則さん

やっぱり心の余裕がないとね。

年1回、町外の情景を楽しむ

さもすると「敷居が高い」と感じる人もいるかも知れません。でも俳句や短歌を通して、それぞれが気持ちを伝えたり、耳を傾けたりと、人を深く知れるような雰囲気があり、その楽しさにも出会えます。

良さを見つけて朗らかな歌を

文章を読むことが好きで、書くことは特に好きではなかった。正直はじめは気張っていた。でも俵万智さんの歌集を読んで気が楽になった。形式を気にしなくても歌は詠めるんだと。だからこそ、この会では日常素直に感じたことを題材にしている。歌を詠むようになって、朝日・夕焼け・花・動物など普段の何気ない流れも、常に意識するようになった。

いくら題材が思い浮かばないからといって、情けないことを題材にせず、明るく、将来に向けた、朗らかなことを歌にしていきたい。それには、何事にも良いところを見つけるように意識すること。これが大事で、何よりも難しい。やっぱり心の余裕がないとね。歌が悪口やはけ口になっちゃいけん。日々平和で、家庭と社会が平穏だからこそできるんじゃないかのぉ。